

## 第7回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成22年3月26日（水）18:15～20:10

中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

### 【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、鈴木委員、田中委員、辻本委員、道上委員、森田委員、山田委員、前原大臣、馬淵副大臣、三日月政務官、中原政策官、佐藤河川局長

### 【意見募集の結果について】

- 事務局から、意見募集の結果が報告された。応募総数は403件であり、治水対策案及び評価軸に関する様々な提案について、意見の概要や提案の中に含まれていたキーワード等が示された。
- 今後、「意見募集」に頂いた各意見については、検討の参考にするとともに、氏名等の個人情報保護などの処理を行った上で、国土交通省ホームページで公表する予定である。

### 【治水対策の立案及び評価について】

- 各地方で個別ダムの検証を検討する場合の流れ、治水対策の方策、8つの評価軸（達成しうる安全度、コスト、実現性、持続性、地域社会への影響、環境への影響、流水の正常な機能の維持への影響、利水事業への影響）と評価の考え方のタタキ台が示され、これをもとに討議が行われた。
- 主な意見は以下のとおり。
  - ・各評価軸については、相互に依存性があるものが含まれるのではないかと。ただし、これを評価するのは難しく、いずれかの評価軸に帰着させることになるのではないかと。
  - ・新規に導入しようとする評価軸は、現時点においては定性的にしか評価できないものがほとんどである。それにどのように対応するか、ある程度示さなければならないのではないかと。
  - ・ベネフィットについては、例えば地域観光の発展への波及効果など治

- 水上の効果以外のベネフィットについても評価できるのではないか。
- ・ 地球温暖化による気候変動、少子化、土地利用の変化などの将来の不確実性に対して、治水対策案が柔軟で拡張可能性があるか等の適応可能性の観点が重要ではないか。
  - ・ 河川整備計画における目標と同程度の安全度を確保することを基本とするとしても、治水対策案によっては、超過洪水やゲリラ豪雨など異なる外力に対する効果の発現の特性が異なるのではないか。
  - ・ 水害で死亡する原因に関して、氾濫した際の流速、浸水の深さ、避難できる時間等について定量的に評価していくことが考えられるのではないか。
  - ・ 各評価軸をどのようなウェイトで評価を行っていくかが重要であり、そのためには、どのような場面で誰が評価を行っていくのか等の手続きが重要となるのではないか。
  - ・ 「治水対策の方策」に排水機場があるのは異質であるが、貯留等によって内水排除を抑制することは、ダムの変換となる治水対策として整理することができるのではないか。
  - ・ 高度経済成長期の河川計画のあり方から発想を切り替えて、今後の治水理念を検討していくことが重要ではないか。

#### 【その他】

- 今後のスケジュールについて、次回以降、引き続き中間とりまとめに向けての討議等を進める。